

学生確保の見通し等を記載した書類

目 次

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1.1 学生確保の見通し	2
1.1.1 定員充足の見込み	2
1.1.2 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
1.1.3 学生納付金の設定の考え方	5
1.2 学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2 人材需要の動向等社会の要請	7
2.1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	7
2.2 2.1 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	7

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1.1 学生確保の見通し

1.1.1 定員充足の見込み

近年、高度システム技術者・AI 技術者に対する社会的ニーズはますます高まっており、従来の ICT 分野（通信、データ、インフラ、ソフトウェア、ソリューション関連など）を中心とする求人に加えて、多種多様な分野からのシステム情報学エキスパートに向けた求人数が増加している。

現にシステム情報学研究科においても、最近の博士課程前期課程修了者に対する求人倍率は極めて高く、強い売り手市場傾向が続いている。これに呼応するように、2010 年の研究科設置以降の博士課程前期課程への平均志願倍率は 3 専攻全体で 1.55 倍であり、入学定員充足率も 113%と標準的な充足率を超過している。このような需要過多の状況を踏まえ、博士課程前期課程の入学定員を【資料 1 表 1.1】に示すように現行の 3 専攻合計 73 名から 1 専攻合計 80 名に増加させることにより、高い社会的需要に応える。

一方、博士課程後期課程においては、年度ごと、専攻ごとに増減はあるものの、設置以降の平均志願倍率は 1.05 倍、入学定員充足率は 99%となっており、需要に適合した定員設定といえる。そこで、博士課程後期課程の入学定員は、【資料 1 表 1.2】に示すように現行の 3 専攻合計 12 名から据え置き、1 専攻 12 名に設定する。

1.1.2 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(1) 博士課程前期課程

過去 5 年間の博士課程前期課程における入学状況を【資料 1 表 1.3】に示す。表からシステム科学専攻の志願倍率は 1.18～1.32 倍、情報科学専攻の志願倍率は 1.38～2.14 倍、計算科学専攻の志願倍率は 1.50～2.04 倍であり、専攻間で若干の差異はあるものの、いずれの専攻においても高い志願倍率で推移しており、今後も長期にわたり学生を確保できることが予想される。

また、各専攻の合格最低点のうち、最低点が最も低い専攻の点数を基準として、一専攻にした場合を想定し、研究科全体で合否判定をシミュレーションして得られた推定合格者数を【資料 1 表 1.4】に示す。表中の括弧内は、定員（実合格者に対しては現行の 3 専攻合計 73 名、一専攻化想定においては定員増後の 80 名）に対する合格者数の割合を示しており、現行と改組による定員増後において、ほとんど差異はない。この表から、現行の 3 専攻体制においては、定員が専攻ごとに設定されているため、専攻によっては得点が合格レ

ベルに到達していても不合格と判定される状況が発生していたが、一専攻に改組し、さらに80名への定員増を図ることにより、合格レベルを全く落とさずに合格者数を増加させることが可能となることがわかる。これにより、社会が求める人材の輩出に対し、強力に応えることができる。

なお、【資料1表1.3】に示すように、近年、入学者数が継続的に80名を超過しているが、適切な研究指導が実施されている。従って、学生定員増は、教員負担の観点においても特に支障は生じず、むしろ、実態にあうように定員を適正化するものである。

上記の分析は、過去の入学状況に基づく推測結果を示すものであるが、より客観的かつ実態に合致したニーズ分析を行うため、入学候補者に対して、システム情報学研究科の改組に関するアンケート調査（【資料2】）を実施した。なお、これまでの入学者の内訳（【資料1表1.6】）からわかるように、システム情報学研究科博士課程前期課程の入学者において、工学部情報知能工学科からの内部進学者が大多数を占めているため、2022年度における同学科4年生の進級予定者110名を調査対象とした。回答者数は98名であり、アンケート回収率は約9割となっている。

アンケート調査における設問は以下のとおりである。

- 【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象を持ちましたか。
- 【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。
- 【問3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科への進学についてどう思われますか。
- 【問4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

問1では、改組するシステム情報学研究科に対する印象を尋ねた結果、回答者の90%以上が「非常に興味がある」あるいは「興味がある」と回答している。また、その理由（問2）としては、第一に「専攻分野を越えた教育研究環境」、次いで「融合分野領域での研究」が選択されていることから、改組の狙いが、的確に学生ニーズを捉えていることが明らかになっている。より直接的に進学希望を問うている問3においては、87.7%の回答者が「入学を希望する」あるいは「入学の候補として考える」と回答しており、多くの者がシステム情報学研究科を進学先として志望していることが示されている。自由意見（問4）においては、「たくさんの研究室があるので、共同研究がもっと盛んになればいい」、「他分野との研究の促進に期待したい」、「勉強する幅が広がってよい」、「研究室間の横のつながりが増えれば良い」などの記述が見られ、問2の結果とともに、一専攻化による専攻分野を越えた教育研究の考え方に対する期待が高いことがわかる。

以上より、博士課程前期課程においては、学部 4 年生の具体的な進学先として高い需要があるとともに、一専攻化による異分野共創を志向した教育研究活動に対して大きく期待されていると結論づけることができる。

(2) 博士課程後期課程

過去 5 年間の博士課程後期課程における入学状況を【資料 1 表 1.5】に示す。後期課程に関しては、各専攻の定員設定が極めて少人数であることから、入学年度や専攻によって志願倍率や定員充足率に大きな増減が見られる。それゆえに、入学者数が定員に到達していない年度もあるが、過去 5 年間の平均の入学定員充足率は 95%、2010 年の研究科設置以降 12 年間における平均入学定員充足率は 99%となっており、適切な定員設定と考えられる。一専攻への改組により、専攻間のアンバランスが解消されるとともに、社会ニーズに対応した柔軟な教育プログラムによる需要発掘効果も期待でき、今後も安定した定員確保が見込まれる。

【資料 1 表 1.7】は、過去 5 年間の入学者の内訳を示している。過去 5 年において、システム情報学研究科博士課程前期課程からの進学者（内部進学）がおよそ 42%（入学者合計 59 名中内部進学者 25 名）を占め、企業に就職後、在職のまま社会人として入学している者の割合はおよそ 37%（入学者合計 59 名中社会人 22 名）となっていることがわかる。そこで、前期課程からの進学者に対する具体的なニーズ分析のため、2022 年度にシステム情報学研究科の博士課程前期課程に在籍している者、および研究生として在籍している者（合計 134 名）を対象にアンケート調査（【資料 3】）を実施した。回答者数は 126 名、アンケート回収率は 94%である。また、社会人のリカレント教育としてのニーズを把握するため、後述する企業に対するアンケート調査の問 5 として、「貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか」という設問を用意した。

アンケート調査における設問は以下のとおりである。

- 【問 1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。
- 【問 2】【問 1】で「非常に興味がある」、「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。
- 【問 3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科博士課程への進学についてどう思いますか。
- 【問 4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

システム情報学研究科に対する興味を問うている問1において、「非常に興味がある」あるいは「興味がある」と回答した者は全体の61.4%となっている。前期課程に対するアンケート結果と比較すると低い傾向となっているが、例年9割以上の者が前期課程修了後、後期課程には進学せずに就職する状況を考慮すると、必ずしも低いわけではない。「非常に興味がある」あるいは「興味がある」の理由(問2)としては、学部4年生と同様に、「専攻分野を越えた教育研究環境」と「融合分野領域での研究」が多くの回答者によって支持されており、改組の狙いが好意的に捉えられていることは特筆すべき点である。進学希望に関する質問である問3においては、「進学を希望する」と「進学を検討してみたい」の合計が24.6%であり、さらに、11.9%の者が「現時点では、まだ進学か就職を決めていない」と回答していることから、これまでの内部進学者の割合が前期課程修了者数の約6%であることを考えると、十分に高い進学需要が見込まれる。

企業へのアンケートに対する分析については、「2.人材需要の動向等社会の要請」において詳述するが、博士課程後期課程への社会人としての入学に関する問5についてのみ、ここで言及する。「貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか」という問いに対し、「わからない」という回答が過半数を占めるものの、約4割の企業から「有効であると思う」という回答があり、逆に「有効であるとは思わない」という回答は、3.8%に留まっている。このことから、企業に在職している社会人に対するリカレント教育として、一定以上の需要があることがわかる。

以上より、博士課程後期課程においては、博士課程前期課程の在学からみても定員に対して十分に高い進学需要があり、企業に在職している社会人に対するリカレント教育としても一定以上の需要があると結論づけることができる。

1.1.3 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令に基づく標準額を適用し、年額535,800円とする。なお、本学における他研究科の学生納付金は、法学研究科実務法律専攻を除き同一の年額535,800円としている。

1.2 学生確保に向けた具体的な取組状況

博士課程前期課程の基礎となる学部である本学工学部情報知能工学科の3年次学生を対象に、毎年進路ガイダンスを実施しており、就職活動に関する情報を提供するとともに、本研究科の概要説明を実施し、大学院進学への動機づけを行っている。これにより【資料1表1.8】に示すように、例年、情報知能工学科卒業者の約85%が進路先として大学院進学を

希望している。改組後においても、引き続き、同様のガイダンスを実施する。また、学内他学部他学科や学外の学部生に対して、本研究科のウェブサイトを利用した広報活動を継続する。

本学における博士学生のための全学的な育成戦略や企画立案、各種支援制度を統括するために、学長直下に「大学院博士支援推進室」を設置しており、教育支援、研究支援、キャリア支援、経済的支援を一体的に運用する「博士学生支援総合パッケージ」を策定し、卓越した博士人材の総合的育成支援を行っている。また、博士課程学生を共同研究等に参画させる「博士学生プロジェクト研究員制度」や、安定して研究に専念できるよう研究専念支援金等を支給する「博士学生フェロシップ制度」を整備し、研究修学環境を整え学生確保に努めている。

また、後期課程においては大学院設置基準第14条による教育方法を実施する。既に社会で活躍している技術者等にも広く門戸を開放し、リカレント教育によって社会に直結した実践研究を推進する人材を確保・育成するために、より多くの社会人に対して大学院教育の機会を提供する。

2. 人材需要の動向等社会の要請

2.1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

システム情報学研究科は、急激に変化し多様化し複雑化するシステム情報学への社会からの要請に応えるため、「システム情報学」に関する複数の学問分野を一体化させた組織である。その特徴として、複数の学問分野が柔軟かつ機動的・先見的に連携し、共創（Co-Creation）と協働（Collaboration）を可能とする新しいネットワーク型の教育研究体制があげられる。このネットワーク型の教育研究体制により、社会変化に柔軟に対応できる俯瞰的視野を有し、未来社会を構想・設計する能力、課題を発見・解決する能力、論理的に思考する能力を備えた研究者と技術者を育成する。

教育プログラムとして、前期課程においてシステム情報学的視座から社会的課題解決や価値創造の見方・考え方を概観する基礎科目、社会的課題解決や価値創造のために必要なシステム情報技術・技法の習得を行う専門科目、柔軟性・機動性・先見性を備えた教育フレームワークであるC³（シーキューブ）ユニット科目、複眼的発想力の涵養を学ぶ展開科目の4つの科目区分を置く。この教育プログラムによりシステム情報学の共通の基礎を理解した上で専門領域の知識と技術を身につけ、特に新興領域・融合領域での問題解決に肝要となる複眼的視野を有する創造性豊かな高度専門職業人を養成する。また、そのシステム情報学の共通の基礎を理解し、専門領域の基本的な知識と技術、課題を理解し解決する能力を身につけた学生に修士の学位を授与する。修了した学生はいわゆる高度IT人材と呼ばれるものを含むものであり、分野を問わず社会からの需要は極めて高い。

後期課程では、自ら問題を設定・探求・解決できる高度な課題探求能力、豊かな創造性と国際感覚を有する研究者・高等教育研究機関の教員・高度専門職業人等を養成するための教育研究を行う。このため、前期課程同様にC³ユニットを導入し、ユニット科目を通して前期課程学生と異世代共創協働するP²BL (Project/Problem Based Learning)によりリーダーシップ養成教育を行う。また、システム情報学の共通の基礎を単に理解するだけでなく、その問題点や可能性について考察し、新たな理論や方法論を展開する能力を持ち、専門領域を主体的に発展させて専門外の研究者等との研究交流を実践できる能力を身につけた学生に博士の学位を授与する。こうした人材は企業や社会の将来を設計する重要な役割を果たすことが期待され、そのような人材に対する需要も極めて高い。

2.2 2.1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

製造業、通信業の関連企業などを対象として、システム情報学研究科の改組に関するアンケート調査を2022年3月に実施し、52社の回答を得た（【資料4】）。主な設問は以下のとおりである。なお、本アンケートでは博士課程前期課程を修士課程、博士課程後期課程

を博士課程と記載している。

- 【問 1】**一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。
- 【問 2】**【問 1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。今回の改組に対して興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください。【複数選択可能】
- 【問 3】**一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。
(俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力)
- 【問 4】**【問 3】で、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答された方にお聞きします。必要と感じる学生の能力について、特に重要と考えるものを以下の中で3つまで選択してください。
- 【問 5】**貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか。
- 【問 6】**本研究科を卒業した学生について、貴社では採用したいと思いますか。
- 【問 7】**【問 6】で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。修士課程、博士課程のいずれを修了した学生の採用についてお考えでしょうか。
- 【問 8】**一専攻化後のシステム情報学研究科に対して期待、希望すること等がありましたら、自由に記述願います。

回答結果によると、問1「一専攻化に改組する大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。」という設問に対し、「非常に興味がある」「興味がある」と回答したのは全体の98% (51社)であり、その理由として、「養成される学生への期待」(38社)、「システム情報学の更なる発展への期待」(36社)、「社会ニーズへの対応力強化」(24社)が選択されており、社会的に人材需要があることが示唆された。

問3「一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。(俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力)」という設問に対し、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答したのは全体の98% (51社)であり、特に必要と感じる学生の能力について、「課題発見力」(35社)、「問題解決能力」(35社)などが選択された。企業においては、専門能力に加えて課題発見力や問題解決能力を持つ人材が必要とされており、改組後のシステム情報学研究科に高い期待を寄せていることが示唆された。

問5「貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか。」という設問に対し、「有

効であると思う」と回答したのは21社、「わからない」と回答したのは29社となった。

問6「本研究科を卒業した学生について、貴社では採用したいと思いませんか。」という設問に対し、「採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは全体の94.2%（49社）であり、そのうち修士課程（博士課程前期課程）修了学生を採用したいとの回答が22社、修士と博士課程（博士課程後期課程）修了学生いずれも採用したいとの回答が27社となり、システム情報学研究科が養成する修士/博士課程修了学生について需要があることが示唆された。

「一専攻化後のシステム情報学研究科に対して期待、希望すること等」に対する自由記述では、以下のようなコメントがあった。

- どのような学問にもシステム情報の知識が必要になりつつあることは業務を通しても感じている。社内研修でも全社員にシステム情報系の研修を受講することを推奨している。学生時代から慣れ親しむと社会人になってから柔軟に適用できるのではと感じた。
- 弊社も現在、DXに注力し、社内体制を一新しました。今後グローバルに戦っていくためにはこのような力が必須かと思えます。優秀な学生さんを輩出されることを期待しております。
- 今後の企業活動として、欠かせない知識分野となるので、専門性を備えた学生を育てていただきたい。
- AIやデータサイエンスの活用により、社会を変革していく人材を多く育成していただき、弊社にも入社していただけることを期待しています。ビジネスの現場では、技術力が高いだけでなく、ビジネス課題を引き出しAI・データサイエンスの問題に落とし込みデジタルトランスフォーメーションを実行できる人材が求められています。弊社としてもインターンシップ等を活用して、国内の大学とは連携を図ろうとしているところもあり、今後のカリキュラム変更と人材育成に関して、期待するところが大です。
- 自動車業界のCASEの実現のため人材育成に期待いたします。
- 一専攻化することでこれまでの専門性を保持した上で、複眼的視野を有する人材養成ということで非常に興味深い内容でした。卒業生が当社に限らず社会でご活躍されることを祈念しております。

今回のアンケート回答の自由記述からも、改組後のシステム情報学研究科が養成する人材は、社会的に期待されていることが示唆された。

また経団連の報告書では、Society 5.0ではAIやデジタル技術、論理的思考力と規範的判断力を基盤として、社会の多様な課題やニーズを読み取り、それらを解決するシナリオ

を設計する想像力と、それを現実のものとする創造力が強く求められると指摘している（「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」2020年3月31日）。さらに同報告書にて AI・数理統計・データサイエンス人材の不足についても指摘されている。その他にも内閣府の統合イノベーション戦略2021では、重点的に取り組むべき施策の一つとして、サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革などが述べられている。以上のことから、システム情報学研究科が養成する人材像は、社会的な需要の動向を踏まえたものであると言える。

学生確保の見通し等を記載した書類 資料

目 次

資料 1	システム情報学研究科博士前期課程後期課程の入学状況等	2
表 1.1	システム情報学研究科博士課程前期課程入学定員	2
表 1.2	システム情報学研究科博士課程後期課程入学定員	2
表 1.3	過去 5 年間における博士課程前期課程の入学状況	3
表 1.4	一専攻化を前提とする合格者数のシミュレーション結果	4
表 1.5	過去 5 年間における博士課程後期課程の入学状況	5
表 1.6	過去 5 年間における博士課程前期課程への入学者内訳	6
表 1.7	過去 5 年間における博士課程後期課程への入学者内訳	6
表 1.8	過去 5 年間における情報知能工学科卒業者の進学希望率	6
資料 2	工学部情報知能工学科 4 年進級予定者対象アンケート (概要・調査表・結果)	7
資料 3	博士課程前期課程在籍者対象アンケート (概要・調査表・結果)	13
資料 4	企業アンケート (概要・調査表・結果)	20

表 1.1 システム情報学研究科博士課程前期課程入学定員

現行		改組後	
専攻	入学定員	専攻	入学定員
システム科学専攻	28	システム情報学専攻	80 (+7)
情報科学専攻	21		
計算科学専攻	24		
合計	73	合計	80 (+7)

表 1.2 システム情報学研究科博士課程後期課程入学定員

現行		改組後	
専攻	入学定員	専攻	入学定員
システム科学専攻	3	システム情報学専攻	12 (±0)
情報科学専攻	3		
計算科学専攻	6		
合計	12	合計	12 (±0)

表 1.3 過去 5 年間における博士課程前期課程の入学状況

2017年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	28	33	29	28	1.18	100%
情報科学専攻	21	29	24	23	1.38	110%
計算科学専攻	24	37	29	27	1.54	113%
合計	73	99	82	78	1.36	107%

2018年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	28	34	31	31	1.21	111%
情報科学専攻	21	34	24	24	1.62	114%
計算科学専攻	24	41	28	27	1.71	113%
合計	73	109	83	82	1.49	112%

2019年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	28	36	32	28	1.29	100%
情報科学専攻	21	39	27	27	1.86	129%
計算科学専攻	24	49	30	27	2.04	113%
合計	73	124	89	82	1.70	112%

2020年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	28	36	31	31	1.29	111%
情報科学専攻	21	38	26	25	1.81	119%
計算科学専攻	24	36	27	26	1.50	108%
合計	73	110	84	82	1.51	112%

2021年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	28	37	28	28	1.32	100%
情報科学専攻	21	45	29	28	2.14	133%
計算科学専攻	24	40	27	27	1.67	113%
合計	73	122	84	83	1.67	114%

表 1.4 一専攻化を前提とする合格者数のシミュレーション結果

2019年度		
専攻	実合格者数	一専攻化時の推定合格者数 (※)
システム科学専攻	32	97 (1.21)
情報科学専攻	27	
計算科学専攻	30	
合計	89 (1.22)	

2020年度		
専攻	実合格者数	一専攻化時の推定合格者数 (※)
システム科学専攻	31	89 (1.11)
情報科学専攻	26	
計算科学専攻	27	
合計	84 (1.15)	

2021年度		
専攻	実合格者数	一専攻化時の推定合格者数 (※)
システム科学専攻	28	90 (1.13)
情報科学専攻	29	
計算科学専攻	27	
合計	84 (1.15)	

※一専攻を前提とした場合における合格者数（3専攻の最低合格最低点により合否判定したシミュレーション結果）

括弧内は、定員（実合格者に対しては現行の3専攻合計73名、一専攻化時には定員増後の80名）に対する合格者数の割合

表 1.5 過去 5 年間における博士課程後期課程の入学状況

2017年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	3	3	3	3	1.00	100%
情報科学専攻	3	7	7	7	2.33	233%
計算科学専攻	8	6	6	5	0.75	63%
合計	14	16	16	15	1.14	107%

2018年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	3	2	2	1	0.67	33%
情報科学専攻	3	1	1	1	0.33	33%
計算科学専攻	6	4	3	3	0.67	50%
合計	12	7	6	5	0.58	42%

2019年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	3	4	3	3	1.33	100%
情報科学専攻	3	3	3	3	1.00	100%
計算科学専攻	6	3	3	3	0.50	50%
合計	12	10	9	9	0.83	75%

2020年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	3	5	5	5	1.67	167%
情報科学専攻	3	6	6	6	2.00	200%
計算科学専攻	6	3	2	1	0.50	17%
合計	12	14	13	12	1.17	100%

2021年度

専攻	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
システム科学専攻	3	4	4	4	1.33	133%
情報科学専攻	3	11	11	11	3.67	367%
計算科学専攻	6	3	3	3	0.50	50%
合計	12	18	18	18	1.50	150%

表1.6 過去5年間における博士課程前期課程への入学者内訳

入学年度	入学/進学総数	内部生(進学)	学外生(入学)	留学生	社会人
2017	78	69	9	7	0
2018	82	71	11	7	0
2019	82	63	19	16	0
2020	82	76	6	3	0
2021	83	72	11	7	0

注) 入学/進学総数は内部生(進学)と学外生(入学)の総数である。また、留学生と社会人の人数は入学/進学総数の内数である。

表1.7 過去5年間における博士課程後期課程への入学者内訳

入学年度	入学/進学総数	内部生(進学)	学外生(入学)	留学生	社会人
2017	15	9	6	4	1
2018	5	1	4	3	2
2019	9	5	4	3	3
2020	12	2	10	2	11
2021	18	8	10	11	5

注) 入学/進学総数は内部生(進学)と学外生(入学)の総数である。また、留学生と社会人の人数は入学/進学総数の内数である。

表1.8 過去5年間における情報知能工学科卒業者の進学希望率

年度	卒業予定者数	進学希望者数	進学希望率
2016	105	87	82.9%
2017	100	85	85.0%
2018	112	96	85.7%
2019	106	90	84.9%
2020	111	94	84.7%

工学部情報知能工学科4年進級予定者対象アンケート概要

調査目的：改組後のシステム情報学研究科への印象と進学に関する調査

調査方法：Web によるオンラインアンケート

調査対象：神戸大学工学部情報知能工学科 4 年生進級予定者 110 名

調査期間：2022 年 3 月 10 日

回答者数：98 名（回収率 91%）

令和4年3月10日

神戸大学 大学院システム情報学研究科 一専攻化改組に関するアンケート

今期に研究室配属される新4年生の皆さんのうち、大学院への進学を考えておられる方にとっては、本大学のシステム情報学研究科（以下、本研究科）をその一つとして考えておられる方も多いかと思います。本研究科は、皆さんが進学される頃と時期を同じくして、2023年度に組織改編を計画しています。以下にその趣旨を記載していますので、皆さんの考えをお聞かせください。

【システム情報学とは】

「システム情報学」は、様々な「システム」に内在する意味のある情報である「システム情報」の創出・処理・利用などに寄与することを目指す学問領域です。ここで言う「システム」は、宇宙、地球、人間、生体、人工物などを包含し、自然から工学、社会までの広範な「システム」を意味しています。2010年に設置された本研究科では、このようなシステム情報学を追求するための理論・方法論に関する教育研究を強力に推進しています。

【2023年度からの本研究科について】

現在、本研究科は「システム科学専攻」、「情報科学専攻」、「計算科学専攻」の3専攻構成ですが、2023年4月からは3専攻の枠を取り除き、これらを一体化させた1専攻の組織に変更し、3専攻の専門分野が融合した形での柔軟な教育研究環境を構築します。

近年、人工知能、データサイエンス、モノのインターネット、ビッグデータ、ロボットなどをコアとした融合分野領域が学界や産業界で重要となってきています。このような状況の変化に対して、3専攻の垣根を越えて素早く柔軟に対応できる「システム情報」人材を養成し社会に輩出することは急務です。このために、「最先端技術やそれを問題解決のために使いこなす能力」に加えて、「広い知見に基づく先見性、俯瞰力」、「課題を自ら発見・設定する能力」、「積極性のある実行力」、さらに、「共創、協働を支えるコミュニケーション力」、「分野を先導し、後進を育成する指導力」など、一層高度な研究推進能力を有し、新領域を切り拓き、イノベーションにつながるような新しい理論・方法論を構築する人材を養成し、社会に輩出することは非常に重要です。本研究科では、このような社会的要請に応えるために、これまでの3専攻を一体化させた「システム情報学専攻（仮称）」を新たに設置します。

【特色ある教育フレームワーク：C³ユニット】

1専攻下での本研究科では、上述の社会的要請に応えることができる人材を養成するため、これまでの座学中心の教育を見直し、以下の特徴をもったPBL (Project/Problem Based Learning) 型の教育を新たに実施します。

- ・ 「システム情報」×「他分野（社会、環境、自然、生命、人、など）」による異分野共創型プロジェクトへの参加
- ・ 博士課程学生、修士課程学生を含めた異世代メンバー参加によるプロジェクト推進
- ・ 俯瞰的視野、システムの思考力、未来社会の構想・設計力、課題発見・解決力、論理的思考力、価値創造力、コミュニケーション力の習得

これらの特徴を持つ教育フレームワークとして C³ ユニットを構築します。(C³は、神戸大学のキーワードである「異分野共創」に基づき、共創(Co-Creation)と協働(Collaboration)の3つのCを意味します。)

【修得できる能力】

特に修士課程では、C³ ユニット教育を通して、システム情報学の基礎を理解した上で専門領域の知識と技術を身につけ、特に新興領域・融合領域での問題解決に肝要となる複眼的視野と豊かな創造性を持つ、企業ニーズに応えることができる高度専門職業人を養成します。具体的には、技術的・社会的問題を抱えている人、専門分野の異なる人と協働し、課題を解決することができる、以下の能力をもった人材を養成します。

- ・ 自らの専門分野の理論・技術をわかりやすく伝える能力
- ・ 他者の専門分野の理論・技術の本質を素早く理解する能力
- ・ 自他の専門分野の理論・技術を組み合わせて元の問題を解決できる能力

つきましては、本研究科の組織改編に先立ちまして、新4年生の皆さんの率直な考えや意見を参考とたく、アンケートへの協力をお願いします。

◎アンケートは以下の URL リンク先の Google Form に回答してください。

<https://forms.gle/oNZ8yoKLV3pWBZw79>



アンケート

【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象を持ちましたか。

1. 非常に興味がある
2. 興味がある
3. 興味がない

【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。

1. 専攻分野を超えた教育研究環境
2. 教育フレームワーク（C³ユニット）
3. システム情報学への興味
4. 企業ニーズに合った教育を受けられる環境
5. 融合分野領域での研究
6. 就職により有利になる可能性
7. その他（以下に記入してください）

【問3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科への進学についてどう思われますか。

1. 入学を希望する
2. 入学の候補として考える
3. 入学の候補ではない（他大学院を希望する）
4. 大学院への進学を考えていない
5. 現時点では、まだ進学か就職か決めていない

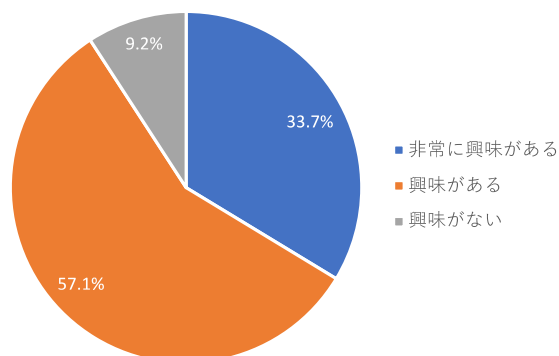
【問4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

以上

アンケート回答結果

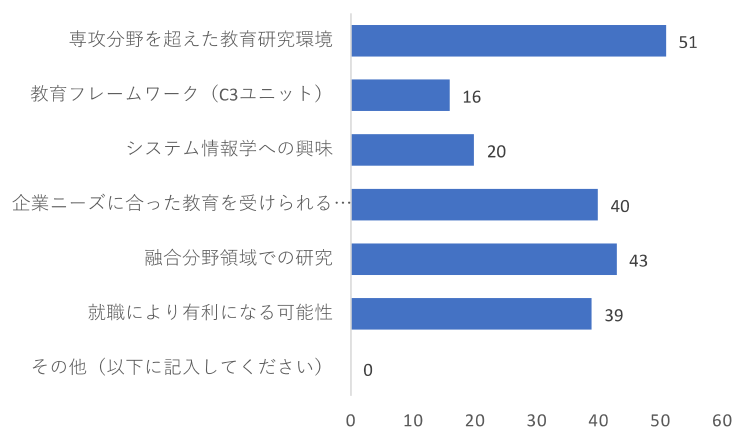
【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象を持ちましたか。

98 件回答



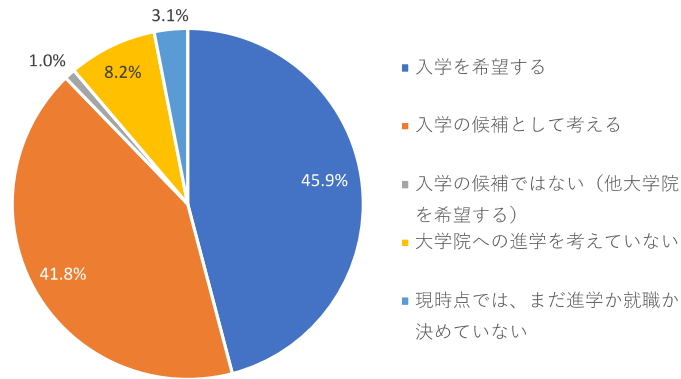
【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。

88 件回答



【問3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科への進学についてどう思われますか。

98 件回答



【問4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

以下、21 件の回答（「特になし」などは省いたもの）のうち主な意見

- せっかくたくさん研究室があるので、共同研究がもっと盛んになればいいなと思います。
- 他分野との研究の促進に期待したいと思います。
- 研究室間の横のつながりが増えれば良いと思う。
- 勉強する幅が広がってよいと思いました。
- 専攻が1本化されることによってこれまでは受けることが出来なかった授業などを受けることができるようになると嬉しいです。
- 講義内容など、具体的な取り組みを知りたい。

博士課程前期課程在籍者対象アンケート概要

調査目的：改組後のシステム情報学研究科への印象と進学に関する調査

調査方法：Web によるオンラインアンケート

調査対象：博士課程前期課程在籍者（研究生含む）134 名

調査期間：2022 年 3 月 3 日～3 月 10 日

回答者数：126 名（回収率 94%）

令和4年3月3日

神戸大学 大学院システム情報学研究科 一専攻化改組に関するアンケート

現在のシステム情報学研究科（以下、本研究科）は、「システム科学専攻」、「情報科学専攻」及び「計算科学専攻」の3専攻からなっていますが、以下に述べるねらいから、2023年度に「システム情報学専攻（仮称）」として一専攻化する改組を計画しています。それに先立ち、現在、修士学生として在籍中の皆さんのお考えをお聞かせください。

【背景】

近年、人工知能、データサイエンス、モノのインターネット、ビッグデータ、ロボットなどをコアとした融合分野領域が学界や産業界で重要となってきています。このような状況の変化に対して、3専攻の垣根を越えた素早く柔軟に対応できる「システム情報」人材を養成し、社会に輩出することは急務です。このために、「最先端技術やそれを問題解決のために使いこなす能力」を備えた高度技術者の養成だけでなく、「広い知見に基づく先見性、俯瞰力」、「課題を自ら発見・設定する能力」、「積極性のある実行力」、さらに、「共創、協働を支えるコミュニケーション力」、「分野を先導し、後進を育成する指導力」など、一層高度な研究推進能力を有し、新領域を切り拓き、イノベーションにつながるような新しい理論・方法論を構築できる人材を養成し、社会に輩出することは非常に重要です。本研究科では、このような社会的要請に応えるために、これまでの3専攻を一体化させた「システム情報学専攻（仮称）」を設置します。

【特色ある教育フレームワーク：C³ユニット】

1 専攻下での本研究科では、上述の社会的要請に応えることができる人材を養成するため、これまでの座学中心の教育を見直し、以下の特徴をもったPBL (Project/Problem Based Learning) 型の教育を新たに実施します。

- ・ 「システム情報」×「他分野（社会、環境、自然、生命、人、など）」による異分野共創型プロジェクトへの参加
- ・ 博士課程学生、修士課程学生を含めた異世代メンバー参加によるプロジェクト推進
- ・ 俯瞰的視野、システムの思考力、未来社会の構想・設計力、課題発見・解決力、論理的思考力、価値創造力、コミュニケーション力の習得

これらの特徴を持つ教育フレームワークとして「C³ユニット」を構築します。（C³は、神戸大学のキーワードである「異分野共創」に基づき、共創（Co-Creation）と協働（Collaboration）の3つのCを意味します。）

特に博士課程後期課程では、C³ ユニット教育を通して、修士課程での教育を更に深化・発展させ、「自ら問題を設定・探求・解決できる高度な課題探求能力」と、「新たな知識・価値の創出に寄与する豊かな創造性と国際感覚」、「研究プロジェクトをリードする指導力」を有する研究者・高等教育研究機関の教員・高度専門職業人等を養成します。

つきましては、本研究科の組織改編に先立ちまして、現在修士課程に在籍中の皆さんの率直な考えや意見を参考といたく、アンケートへの協力をお願いします。

◎アンケートは以下の URL リンク先の Google Form に回答してください。

<https://forms.gle/Dkjwg5DdJ16ytZok8>



アンケート

あなたの学年を教えてください。

1. 新 M2
2. 新 M1
3. 研究生
4. その他 ()

【問 1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。

1. 非常に興味がある
2. 興味がある
3. 興味がない

【問 2】【問 1】で「非常に興味がある」、「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。

1. 専攻分野を超えた教育研究環境
2. 教育フレームワーク（C³ユニット）
3. システム情報学への興味
4. 企業ニーズに寄り添った教育を受けられる環境
5. 融合分野領域での研究
6. 博士課程におけるプロジェクト指導力の習得
7. アカデミア（大学や研究機関）への就職に有利
8. 企業就職時に有利になる能力の習得
9. その他（以下に記入してください）

【問 3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科博士課程への進学についてどう思いますか。

1. 進学を希望する
2. 進学を検討してみたい
3. 進学はしない（就職希望もしくは他大学の博士課程へ進学を希望）
4. 現時点では、まだ進学か就職か決めていない

【問4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

以上

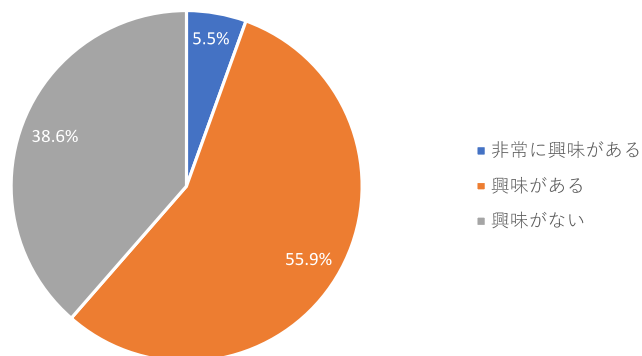
アンケート回答結果

回答者学年

学年	人数
新 M1	64
新 M2	56
研究生	6
その他	0

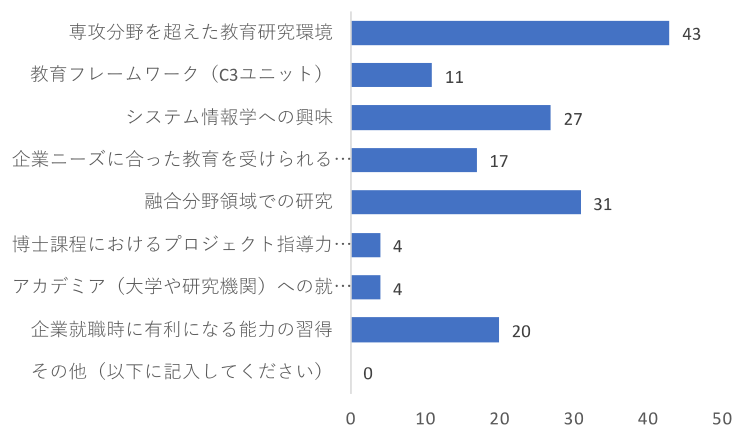
【問 1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象を持ちましたか。

126 件回答



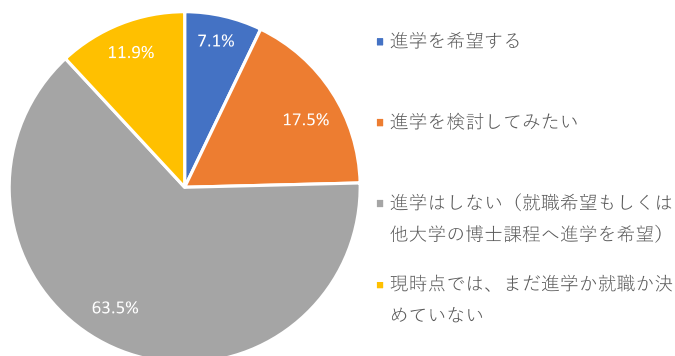
【問 2】【問 1】で「非常に興味がある」、「興味がある」と回答された方にお聞きします。興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください（複数選択可能）。

77 件回答



【問3】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科博士課程への進学についてどう思いますか。

126 件回答



【問4】改組後（一専攻化）のシステム情報学研究科について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

以下、10 件の回答（「特になし」などは省いたもの）のうち、主な意見

一専攻化したほうがよい/どの程度他分野とつながることができるのか気になる/
自分の研究内容に沿った講義が受けられるようになるならよい/多分野の講義を受けたいので授業時間の重複を少なくしてほしい//専門性が失われる可能性があると感じた/入試での難易度の差がなくなるのでよい/説明が抽象的/教員、職員が改組の詳細をしっかりと把握しトラブルにならないようにしておく必要がある

企業アンケート概要

- アンケート対象者
情報システム関連企業
回答者は人事担当者

- アンケート実施方法
電子メール、Web にて実施

- アンケート実施期間
2022 年 3 月 1 日から 3 月 10 日

- 有効回答数
52 社

令和4年3月1日

人事ご担当者 各位

神戸大学 大学院システム情報学研究科長
大川 剛直

神戸大学大学院システム情報学研究科改組に伴うニーズ調査に関するお願い

拝啓 早春の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本学の研究・教育活動に関して格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本学におきましては、2023年度に大学院システム情報学研究科（以下「本研究科」という。）を改組し、システム科学専攻、情報科学専攻及び計算科学専攻の3専攻をシステム情報学専攻（仮称）に一専攻化することを計画しております。

本研究科は、最先端のサイバーフィジカル技術を基盤とし、自然科学から工学、社会科学までの広範な領域に現れる大規模で複雑なシステムに内在する「システム情報」の創出・処理・利用などに寄与することを目的として、2010年4月に設立されました。現在の研究科はシステム科学専攻、情報科学専攻、計算科学専攻の3専攻から構成されており、それぞれがコアとなり、大規模・複雑なシステムの解析・設計・運用のための方法論、情報の高次処理・利用に関する理論と技術、高性能計算の基礎と自然現象理解への応用などに関する教育と研究を精力的に実践して参りました。

しかしながら、本研究科設立後10年以上の歳月が過ぎ、研究科を取り巻く状況は大きくかつ急速に変容しています。人工知能、データサイエンス、モノのインターネット、ビッグデータ、ロボットなど、本研究科と関連の深い技術の発展はめざましく、また、人間を中心とした豊かな未来社会である Society 5.0 を真に実現するためにも、これらの技術を有機的に融合させることが必要となってきています。また、産業界においても、産業構造を変革しうる Digital Transformation (DX) が重要になってきているところかと思われませんが、これを成功させるためには、市場との対話の中で迅速に変化する必要性や、1社で対応できない多様な価値を結びつける必要性から、資本の大小や中央・地方の別なく、多くの企業が

連携し、クラウド技術、モビリティ技術、ビッグデータ・アナリティクス技術、ソーシャル技術を活用したデジタルプラットフォームを柔軟に構築することが求められています。この急速な技術の進展に適応しつつ、技術のみならず企業間でも連携していく必要性が高まるなか、専攻分野の垣根を越えて素早く柔軟に対応できる「システム情報」人材を養成し、社会に輩出することは喫緊の課題であります。

このような社会的要請に応えるために、本研究科では、専門領域が専攻によって区分されている現在の3専攻の枠組みを改編し、それらを一体化させたシステム情報学専攻（仮称）を新たに設置します。これによって、これまで3専攻が有していた個々の専門性を保持しつつ、関連研究分野が相互に刺激し合うことができる融合的な教育研究環境を構築します。この新しい教育研究環境のもと、「最先端技術やそれを問題解決のために使いこなす能力」を備えた高度技術者の養成だけでなく、「広い知見に基づく先見性、俯瞰力」、「課題を自ら発見・設定する能力」、「積極性のある実行力」、さらに、「共創、協働を支えるコミュニケーション力」、「分野を先導し、後進を育成する指導力」など、一層高度な研究推進能力を有し、新領域を切り拓き、イノベーションにつながる新しい理論・方法論を構築する人材を養成し、社会に輩出することを目指します。

博士課程前期課程（修士課程）では、システム情報学の共通の基礎を理解した上で専門領域の知識と技術を身につけ、特に新興領域・融合領域での問題解決に肝要となる複眼的視野を有する創造性豊かな高度専門職業人を養成します。

博士課程後期課程（博士課程）では、博士課程前期課程の教育を更に深化・発展させ、自ら問題を設定・探求・解決できる高度な課題探求能力と、新たな知識・価値の創出に寄与する豊かな創造性と国際感覚を有する研究者・高等教育研究機関の教員・高度専門職業人等を養成します。

つきましては、本研究科で養成しようとする人材が社会のニーズに対応したものであるかを調査すべく、企業のみなさまにアンケートへのご協力をお願い申し上げます。

なお、このアンケートはあくまで改組申請に利用するものです。本アンケート結果は、大学院設置審査における参考資料として活用させていただきます。

ご多忙のところ恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

システム情報学研究科改組に関するアンケート

以下の各問について、貴社（人事担当者様）の考えをお聞かせください。

貴社名（ ）

【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。

1. 非常に興味がある
2. 興味がある
3. 興味がない

【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。今回の改組に対して興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください。

【複数選択可能】

1. 専攻分野を超えた教育研究環境の構築
2. システム情報学の更なる発展への期待
3. 養成される学生への期待
4. 社会ニーズへの対応力強化
5. 共同研究に向けた期待
6. その他（以下に記入してください）

【問3】一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。

（俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力）

1. 非常に必要性を感じる
2. 必要性を感じる
- 3.それほど必要性を感じない
4. 必要性を感じない
5. わからない

【問4】【問3】で、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答された方にお聞きします。必要と感じる学生の能力について、特に重要と考えるものを以下の中で3つまで選択してください。

1. 俯瞰力
2. 課題発見力

3. 構想・設計力
4. 問題解決能力
5. 創造力
6. 実行力
7. コミュニケーション力
8. 指導力
9. その他(上の能力に加えて貴社が重要と思うものがあれば以下に記入してください。)

【問5】貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか。

1. 有効であると思う
2. 有効であるとは思わない
3. わからない

【問6】本研究科を卒業した学生について、貴社では採用したいと思いますか。なお、このアンケートは採用の確約をお願いするものではありません。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は特に考えていない
4. わからない

【問7】【問6】で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。修士課程、博士課程のいずれを修了した学生の採用についてお考えでしょうか。

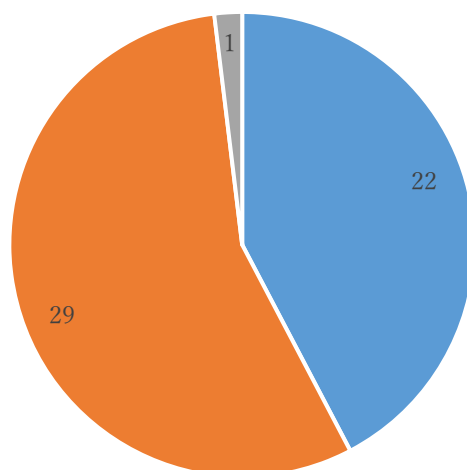
1. 修士課程修了学生
2. 博士課程修了学生
3. 修士課程修了学生、博士課程修了学生いずれも

【問8】一専攻化後のシステム情報学研究科に対して期待、希望すること等がありましたら、自由に記述願います。

以上

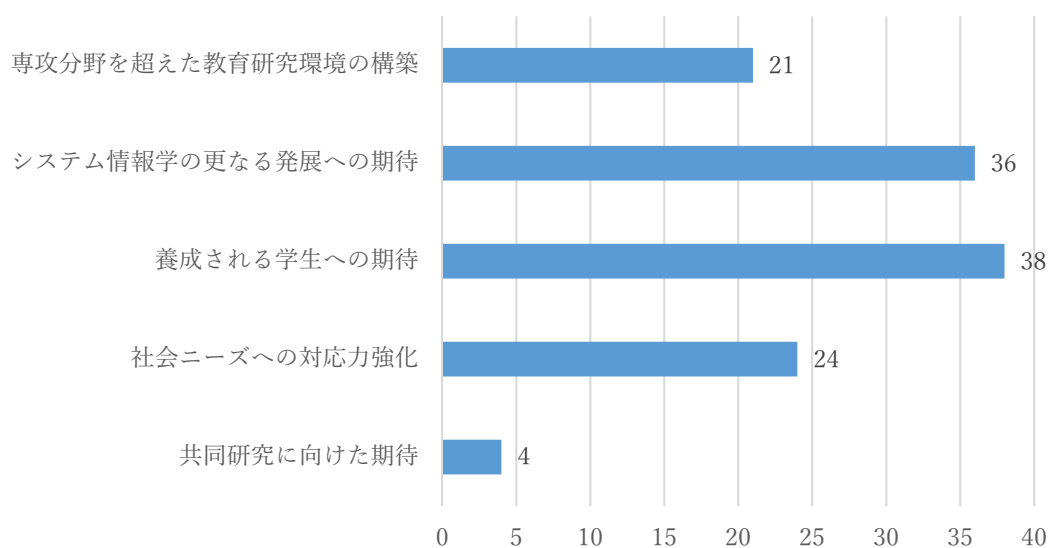
回答に係る集計グラフ

【問1】一専攻化に改組する神戸大学大学院システム情報学研究科について、どのような印象をお持ちになりましたか。



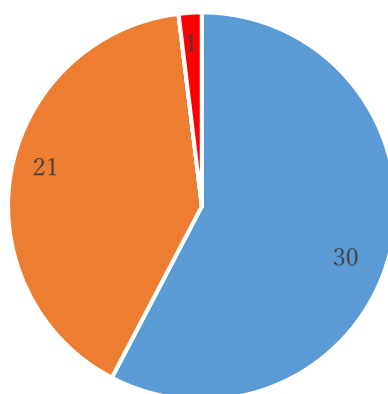
■ 非常に興味がある (22社) ■ 興味がある (29社) ■ 興味がない (1社)

【問2】【問1】で「非常に興味がある」「興味がある」と回答された方にお聞きします。今回の改組に対して興味を感じた理由について以下の中で該当するものを選択してください。
【複数選択可能】



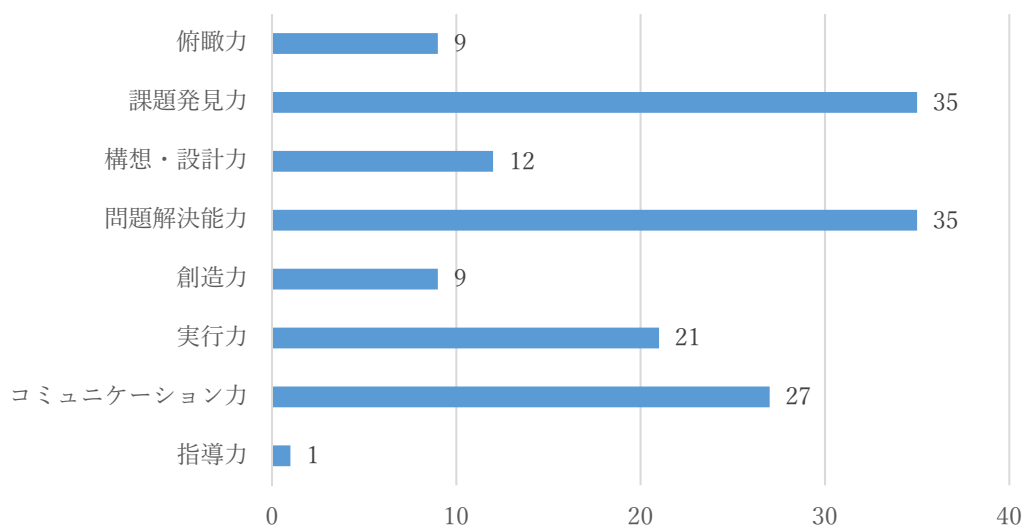
【問3】一専攻化により本研究科では、専門技術能力に加え、以下の能力を有する人材の養成を行います。その必要性についてどのようにお考えでしょうか。

(俯瞰力、構想・設計力、課題発見・解決能力、実行力、コミュニケーション力、指導力)

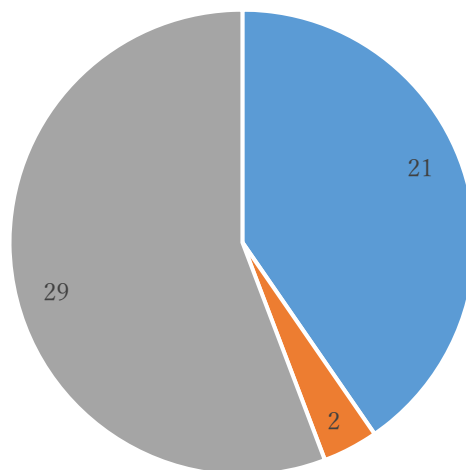


- 非常に必要性を感じる (30社)
- 必要性を感じる (21社)
- それほど必要性を感じない (0社)
- 必要性を感じない (0社)
- わからない (1社)

【問4】【問3】で、「非常に必要性を感じる」「必要性を感じる」と回答された方にお聞きします。必要と感じる学生の能力について、特に重要と考えるものを以下の中で3つまで選択してください。

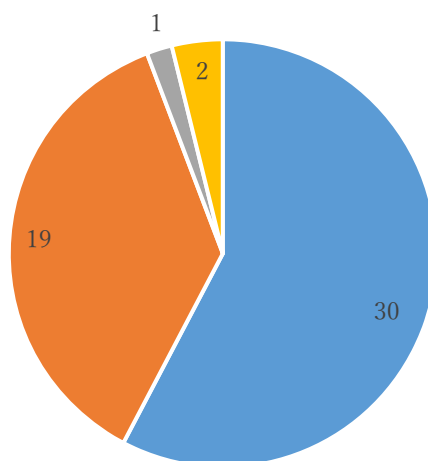


【問5】 貴社の社員のスキルアップやキャリア形成等のために、貴社の社員が本研究科の博士課程に入学し、学位を取得することは有効であると思いますか。



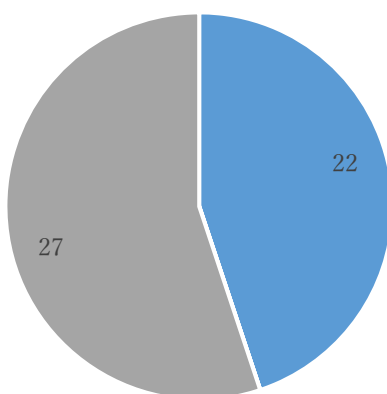
■ 有効であると思う (21社) ■ 有効であるとは思わない (2社) ■ わからない (29社)

【問6】 本研究科を卒業した学生について、貴社では採用したいと思いますか。



■ 採用したい (30社) ■ 採用を検討したい (19社)
■ 採用は特に考えていない (1社) ■ わからない (2社)

【問7】【問6】で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお聞きします。修士課程、博士課程のいずれを修了した学生の採用についてお考えでしょうか。



- 修士課程修了学生 (22社)
- 博士課程修了学生 (0社)
- 修士課程・博士課程修了学生いずれも (27社)

【問8】一専攻化後のシステム情報学研究科に対して期待、希望すること等がありましたら、自由に記述願います。

11 件の回答（「特になし」などは省いたもの）のうち、主な意見

- どのような学問にもシステム情報の知識が必要になりつつあることは業務を通しても感じている。社内研修でも全社員にシステム情報系の研修を受講することを推奨している。学生時代から慣れ親しむと社会人になってから柔軟に適用できるのではと感じた。
- 当社技術担当役員は「(ビジネス) 構想力」に重きを置いています。また、大学で学ぶ専門知識に加えて、ビジネスセンスを持てるかどうか？が KEY になると考えます。
- 弊社も現在、DX に注力し、社内体制を一新しました。今後グローバルに戦っていくためにはこのような力が必須かと思えます。優秀な学生さんを輩出されることを期待しております。
- 弊社はメーカーで、多彩な製品・技術にチャレンジしており、技術部門のリーダーが必要

- 今後の企業活動として、欠かせない知識分野となるので、専門性を備えた学生を育てていただきたい。
- AI やデータサイエンスの活用により、社会を変革していく人材を多く育成していただき、弊社にも入社していただけることを期待しています。ビジネスの現場では、技術力が高だけでなく、ビジネス課題を引き出し AI・データサイエンスの問題に落とし込みデジタルトランスフォーメーションを実行できる人材が求められています。弊社としてもインターンシップ等を活用して、国内の大学とは連携を図ろうとしているところもあり、今後のカリキュラム変更と人材育成に関して、期待するところが大です。
- 自動車業界の CASE の実現のため人材育成に期待いたします。
- 社会の変化に向けた対応を考慮する事が重要であり、その問題解決に DX 化された仕組みが必要となります、その技術は融合的(IoT)である故、一専攻化(融合)する事は望ましいと思います。
- 一専攻化することでこれまでの専門性を保持した上で、複眼的視野を有する人材養成ということで非常に興味深い内容でした。卒業生が当社に限らず社会でご活躍されることを祈念しております。
- ご決断とその実行に敬意を表します。グローバルにご活躍される学生様がより多く養成されると僭越ながら期待を致します。